

第44回全国大会(茨城大会)を終えて

公益社団法人 日本てんかん協会(波の会)茨城県支部



10月21日(土)・22日(日)に水戸市の駿優会館と三の丸ホテルにて、公益社団法人日本てんかん協会第44回全国大会(茨城大会)が開かれ、運営スタッフを含め約420名が集まりました。沖縄、北海道など県外の全国各地から、会員を中心に約200名の方が。また県内からは、スタッフを除くと約150名の方が参集しました。県内の参加者は大半が非会員です。というの

は、県内会員はほとんどがスタッフとして活躍されたからです。

当日は台風21号が接近して、残念ながらキャンセルされた方や早くお帰りになった方もいましたが、予定していたプログラム全てを無事に終了することが出来ました。全国からお集まりいただいた皆様には、帰りの交通機関でもご苦労があったことと思われます。

参加された方々からは、「感動しました」「良かったです」と多くのねぎらいのお言葉をいただきました。

「茨城大会」を企画運営するために、1年以上前から、運営委員会を立ち上げました。運営委員長には、県内のてんかん専門医の第一人者である茨城県立医療大学教授岩崎信明先生にお願いし、運営委員には、私たちがてんかん協会茨城県支部メンバーのほか、県内の専門医師、茨難連や障害者団体役員、その他有識者の方々にご参加いただきました。

大会当日は各界各方面から大勢の方々にご来場・ご支援をいただきました。水戸市長様はじめ来賓の方々、講師の先生方や分科会で担当してくださった方々、オープニングの自然生クラブの皆様、懇親会で演奏していただいた三浦様、昨年準備をしてくださった運営委員の方々、当日お手伝いいただいた沢山のボランティアの方々に、お礼を申し上げます。

茨難連からも、佐々木会長、相談員の方にご協力をいただき、また加盟各団体からご支援いただきました。



(閉会式：運営委員と来年度開催福岡県支部の皆さんが壇上へ)

第16回 成人喘息ゼミナール

参加して

いばらき野バラの会 村上 迪

石川県金沢市のANAホリデイイン金沢スカイホテルに於いて、5月13日、14日の日程で、「第16回、成人喘息ゼミナール」が開催され、村野、道川、村上の3名で参加してきました。今回、道川さんは、同居の母親を案じながらの、参加決断でした。

道川さんの運転で、12日に出発。水戸から途中、村野さんを拾い、国道50号線を上り、結城市で村上が合流。茨城県を横断してのスタートとなりました。

佐野藤岡から高速に乗り、休憩もそそくさと、石川県小松市に16時頃に着き、道川さんが、もう1度尋ねたかったという那谷寺〔なた寺〕を参拝しました。那谷寺は古くから加賀の地に伝わる自由信仰の寺。開創1300年、巨大で幽玄な奇岩があり、巨木が生い茂り、清水が寺庭の細い堀をさらさらと流れ、空気もひんやり。別世界に入り込んだようなひと時を過ごしました。門限に追われるようにお寺を後に、宿に向かいました。

5月13日、午後からの講義までの時間を、金沢市内の妙立寺〔みょうりゅうじ〕。通称、忍者寺を拝観。

幕府の命令で3階建て以上の建築は禁止されていて、加賀藩の秘策、外観は2階建てだが内部は4階建て7層29の階段、最上階の物見台ともとれる望楼は、各方面を遠望でき、大きな井戸は金沢城への逃げ道がある〔誰も確認はしていないとの事〕。出城としての要素を数多く秘めていると説明を受けながら、そのからくり、ただ驚き目を見張り、その造作に頭の中は大混乱しながら見学して来ました。

成人喘息ゼミナールは、13時に受付開始、14時からオープニングセレモニー。今年三田りょうさんの「天道虫ライブと体験談」でした。三田さんは血液の癌を患い、歌があったから癌と闘えた。歌があったから立ち上がったと体験を話され、「天道虫」と云う曲で「愛」「命」を歌うことに！！4曲歌って下さいましたが、歌詞がとても心に響き、心がほっこりし、歌声も素敵だと、元気が湧いてきて、人の優しさを味わいました。

14:40 開校式、基調講演 清水 魏先生「喘息と健康長寿に関する新しい進歩」

I.] 喘息と鼻、咽喉 全てをよいコントロールに~上気道と下気道という一つの繋がった気道で起きて



いる同じアレルギー性の炎症、アレルギー性鼻炎と喘息は互いに影響を及ぼしあっていると考えられている。両方を同時に治療することで、喘息のコントロールがよりよくなります。

II.] 風邪の粉薬を舌下に投与~大変有効だと言われる粉薬の紹介、舌下は飲むよりも苦くならない・免疫が良く、吸収が良い、①口中で吸収される、②アレルギー反応が起きたらすぐ吐き出せる

III.] 新しい喘息薬の登場~〇レルベアとアドエア「☆レルベア、①1日1回でよい、②

薬価が安い、③よく効く〔24時間〕、 ☆アニュイティ〔グラクソ・スミスクライン(株) 説明紹介 ☆シムビコート、 ☆スピオルトレスピマット

☆海外生活をされていて喘息治療を受けても、コントロールが上手くいかず、清水先生の治療で改善したお二人の症例—アメリカ人と日本人は体質が違う。それを見定めて治療、日系人患者には日本医療の治療が必要。

IV] 好酸球性副鼻腔炎・好酸球性中耳炎・好酸球性多発血管炎性肉芽腫症～新しいニュースとして「ヌーカラ」という注射を紹介。体験された方はとても良いと云う報告をしていました。ヌーカラは、現在1本 17万円。ヌーカラによる治療を受けるには、・高容量の吸入ステロイド薬〔例 アドエア 500〕に加えて、その他の喘息治療薬を使っている。

・喘息症状がコントロール出来ない ・血液中の好酸球〔5%以上〕が多いなど条件がある。

V] 長寿に関して～データ化すると長生きは悪いものではない事が見えてくる・ネガティブが多くなるのに幸福感を高く持てるようになる・年とともに生き甲斐の感情が上がって来る。長生きは決して悪いものではない。楽しく元気で明るく生き抜こう。

15:50 講演 薬剤師 柴田 郁弥先生「薬にまつわるQ&A」～薬の飲み合わせについての学習 具体的には薬剤師に気軽に聞く 日常では薬を飲む時、カルシウム、マグネシウム、鉄などを含むもの〔牛乳、硬水、サプリメント〕などで飲まない。・飲み合わせが悪くても胃の中で混ざらなければ問題はないので、2時間ぐらい間隔を空ければよい。

17:10 体験交流会 私は6班グループ、顔見知りが多く、自己紹介と近況報告で交流。その中に初めて参加され方、喘息と診断され「喘息は治りません」と医師から言われ、大きなショックを受け、藁にも縋る気持ちで参加されたのでしょうか。ネットで調べて参加されたとの事。「喘息は治りません」と云う言葉を受け止める側は、暗黒の谷間に落ちたような気分と悲観を味わいます。40年前に私も体験しています。今は健常な方と伍して生きています。現在でもそんな言葉を使う先生がおられるのですね。この言葉は、先生方には禁句にして欲しいなと痛感しました。班の皆様は沸き立って、その方にアドバイスをしていました。久々に活気溢れる交流会でした。

19:00 夕食交流会 食事をしながら交流を深めました。患者会の皆様、芸達者な方が多く、私は、ひたすら食べて、観賞に努めてきました。

5月14日 9時開始 プラティス講習と実習 山崎雅美先生

10:10 講演 歯科医師 白石 晃一郎先生「健康長寿と歯」～喘息や呼吸のことも含めてと云うことで、口腔常在菌による歯科の2大疾患、う蝕症＝虫歯、歯周病＝歯槽膿漏の身体に与える菌の影響を、気道・食道で説明をされ、歯肉炎症がおきると、血管が増え出血し易くなり、菌は白血球に直ぐやっつけられるが、出血と流入は毎日繰り返され、菌が血液に入る。多病気の要因、糖尿病への影響は知られている。歯石〔バイオフィルム〕除去は難しい、歯槽膿漏は進行を止めることが出来る。今は治療が出来るので、しっかり治療をし、自分の歯を残す。自分の歯の根元からの刺激が、脳を刺激し認知症を防げる。自分の歯からの脳への刺激は、入れ歯、インプラントの刺激より、数段勝っている。

11:10 体験交流会～帰られた方も多く6班9班合同で自己紹介をしました。

11:40 体験発表・閉会式「今日の日はさようなら」を皆さんと立ち上がって合唱し、閉会挨拶は石川県喘息友の会名誉会長、徳田栄さんの挨拶で終了しました。

〈今年度の支部活動〉

(公社) 日本リウマチ友の会茨城支部
支部長代行 小野 洋子

茨城支部は昨年の支部総会で支部長はじめ数名の委員の交代がありました。その後、新支部長を中心に活動を進めてきましたが、大変残念なことに支部長の体調の変化に伴い続投が難しくなり、12月末から今年度の残任期間を前支部長が代行することになりました。これからも茨城支部の300人余りの会員さんのご理解とご協力をいただき、委員が力を合わせて支部運営に当たって行きたいと考えています。

多くの難病団体が、いろいろな悩みを抱えながら活動されていると思います。病気を持つ者が主体となる団体ですから委員になる人が少なく、一度委員になると長い間委員を続けなければならない場合が多く、病気の悪化や高齢化、また家族の介護等に悩むこととなります。病人である患者が患者会活動することで病を悪化させることは本末転倒です。この問題をどうにか少しでも改善することはできないのでしょうか。当茨城支部も支部継続を可能にするため、支部活動の意義や在り方などを考え、今後の進め方を模索しています。

さてこのような状況の中、茨城支部は今年度5月に前出講座、6月に支部総会と公開講座の「リウマチ医療講演会」を開催。支部報77号・78号の発行。10月には下妻市の「ピアスパークしもつま」で茶話会を開催。11月にひたちなか総合病院で開催した懇親会と同日午後の常陸リウマチ治療研究会主催の市民公開講座に参加。その他に茨難連総会があり、10月の難病フェスタでは委員の谷島照子さんの療養体験談をやはり委員の椎名礼子さんが代読し、参加者の皆さんに関節リウマチ患者の闘病の一端をご紹介致しました。



10月1日に下妻市で開催した茶話会の集合写真

今後は1月中旬に「新春の集い」を予定しています。その時をお願いしておりますリウマチ専門医の尾登誠先生のご講演では、リウマチ医療の有意義なお話をお聞きできるものと期待しています。
(平成29年12月27日記)

「全員参加という新しいかたち」

全国MS友の会茨城支部
支部長 桑野あゆみ

平成29年12月10日(日)茨城県立青少年会館にて「難病患者の難病患者による難病患者のための集い」が行われました。

午前中は、臨床心理士・枝松慎次郎先生の、実践を交えた「自分と付き合う」ためのお話。先生が目の前で梅干を食べている姿を見て、自分はどうか感じるかを試してみたり、羊の写真を見たあと、目を閉じてなるべく羊の事を思い出さないように試行錯誤してみたり…



若くて軽快な先生のお話により、会場は暖かい空気に包まれ、自分と向き合いながら、熱心にメモを取る姿も見受けられました。「病気なので自分は何もできない…」そんな思い込みから抜け出すチャンスを見つけられた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

午後は毎年恒例となった、多発性硬化症・視神経脊髄炎の名医、藤原一男先生による講演会。この病気になったばかりの方でもわかりやすい基礎知識から、最先端の研究情報までをお話いただきました。

何か月も前から「先生のお話が聞きたい」と、連絡を下さっていた患者さんが来られ、講演後の個人相談で念願だった先生とようやくお話しができて「今度、先生の病院で診てもらおうことになりました。ありがとうございました！」と笑顔で話される姿を見て、患者会・講演会は、専門医と患者を繋げる大事な役目があると改めて感じました。

今回の催しは、私たち全国MS友の会茨城支部の他にいばらき UCD CLUB のみなさん、県難病相談支援センター、県難病団体連絡協議会、茨城県。そのほか、患者支援団体・難病カフェ参加者の方々からのご協力をいただき、今までにない新しい協力体制で実施されました。

たくさんの方の参加も頂いたのはもちろんですが、患者会の垣根を越えてお手伝いに手を挙げて下さった若いみなさんが会を楽しみ、積極的に笑顔でお手伝いをして下さっていた姿が、大変印象に残り、新しい時代の風を感じました。

今後もこのような「全員参加型」の催しが継続され、支援・協力の輪が広がっていくことを切に望みます。ご協力いただいたみなさま、本当にありがとうございました！

いばらき UCD CLUB の活動状況

いばらき UCD CLUB 事務局長 吉川祐一

当会は潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患（IBD）の患者会で、会員数は60名程です。

炎症性腸疾患は腸に炎症や潰瘍ができる難病です。「腸内フローラ」という言葉が世間の注目を集めています。IBD患者にとって「腸内フローラ」を整えることは病状をコントロールするためにとっても大切です。腸は栄養分の消化吸収だけでなく、第2の脳と言われるほどに心身の健康維持に大きな役割を果たしています。

昨年度よりメンタル管理に着目したイベントを企画し実施しております。7月にはカウンセリング技術習得を目的とした講習会の第2回目を実施しました。相談だけ受けたい方のためのピア相談会も合わせて実施し、参加者に役立つ構成を工夫しました。また10月には初めてのヨガ教室を開催しました。胃腸に良いヨガレッスンを講師にアレンジしていただきました。ヨガの深い呼吸は横隔膜を上下させて内臓の動きを活発にしてくれます。ヨガの語源はつなぐという意味で、自分の身体と心のつながりを感じなが



ら心身の軸をしっかりとつくっていきます。自分の心が不安定になってもいつも中心の軸に戻って来れることができるようになるのです。カウンセリング、ヨガは来年度も継続していく予定です。

11月以降は茨城県難病相談支援センターの事業「いばらき難病大学2017」として医療講演会や他患者会との合同イベントを開催しました。都内の専門医をお招きして腸内フローラと腸内粘膜治療についての研究成果や医療情報を学習しました。また保健所主催の医療講演会に相談員として参加させていただき、保健所とのコラボレーションに手ごたえを感じました。

役員が増えて活動の幅が広がり活動費の節減が課題となっております。また若年層患者の患者会離れにどのように対応するか、必要な方々が参加しやすい患者会活動をどのようにできるのかも課題です。県内全エリアでの活動も目標です。これらの難題を解決するため、茨城県難病相談支援センター、保健所、その他の機関と上手に連携していきたいと考えています。

活動状況を下表にまとめました。

月日	事業内容	開催場所	備考
6/10	総会・交流会	県立健康プラザ	難病制度学習会
7/22	ピア相談会	ひたちなか市文化会館	カウンセリング技術習得講座
8/11	発送作業・ミニ交流会	筑西市内	食事会
9/10	I B Dネットワーク第5回理事会	東京都内	役員参加
10/1	ヨガ教室	ミオス	胃腸に良いヨガ
10/28	発送作業・ミニ交流会	鹿嶋市内	カラオケ
11/19	難病大学2017 医療講演会	ミオス	腸内フローラと粘膜治療
11/25-26	I B Dネットワーク第5回総会	大阪市内	役員参加
12/3	難病大学2017 医療講演会	県立健康プラザ	保健所主催、相談員2名派遣
12/10	難病大学2017 合同イベント	県立青少年会館	MS友の会
1/20	鹿行地区交流会	神栖市平泉コミセン	
2/予定	発送作業・ミニ交流会	未定	
3/24	難病大学2017 栄養指導	ミオス	

「茨難連」の活動日誌 (H29年8月～H30年1月)

29年8月6日：役員会

8月9日：テレフォン相談員研修会

8月25日：常総保健所講演会（相談員派遣）

9月9日：第1回ピア相談員研修会

9月16,17日：JPA 関東甲越ブロック交流会

9月24日：難病部会

9月29日：古河・筑西保健所講演会（相談員派遣）

10月1日：役員会

10月17日：テレフォン相談員研修会

10月23日：常陸大宮・日立保健所講演会（相談員派遣）

10月24日：イオン黄色いレシート贈呈式

10月29日：難病フェスタ2017

11月5日：いばらきまつり（国会請願署名）

11月12日：小児難病団体連絡会

11月23日：難病団体連絡会

- 11月25日：疾患別地域交流事業（心臓病）
- 11月26日：JPA幹事会
- 12月2日：役員会
- 12月3日：ひたちなか保健所講演会（相談員派遣）
- 12月4日：テレフォン相談員研修会
- 12月20日：茨難連と県との懇談会（第18回）県庁11階会議室
- 30年1月15日：愛の募金贈呈式
- 1月16日：疾患別地域交流事業（リウマチ）

「茨難連」今後の大まかな予定

- 30年2月3日：役員会・会報78号発行
- 2月17日：第2回ピア相談員研修会
- 2月25日：難病カフェ（結城）
- 3月17日：難病カフェ（鹿嶋）
- 4月1日：役員会
- 5月13日：第36回定期総会
- 5月21日：国会請願行動
- 10月20日：難病フェスタ2018

「歳末愛の募金」贈呈される！

1月15日、水戸市笠原町の茨城県開発公社にある茨城新聞社において、平成29年度「歳末愛の募金」贈呈式が行われました。この募金は毎年茨城新聞に届いた募金の一部を福祉事業関係団体に助成頂いているもので茨難連も毎年頂いています。今年の助成は22団体4施設に助成され、茨難連も頂けることとなりました。



愛の募金贈呈式の様子

アステラス製薬は

“患者会支援活動”に取り組んでいます。

患者会活動を側面から、幅広くお手伝いするため、

2006年4月より社会貢献活動として取り組んでいます。

・公募制活動資金助成 ・ピアサポート研修



詳しくはホームページでキーワードで検索してください。

アステラス 患者会支援



【お問合せ先】アステラス製薬 患者会支援担当 電話番号 03-3244-5110

明日は変えられる。



astellas

アステラス製薬

www.astellas.com/jp/



Working together for a healthier world™
より健康な世界の実現のために

様々な病気に打ち勝つため、ファイザーは世界中で新薬の研究開発に取り組んでいます。
画期的な新薬の創出に加え、特許が切れた後も大切に長く使われている
医療用医薬品を医療の現場にお届けしています。

ファイザー www.pfizer.co.jp

【CO・OP共済ニュース】

CO・OP共済《たすけあい》 加入条件のゆるやかなコース

入るときの告知事項は2つ!

申込日当日における被共済者の健康状態について、「いいえ」または「はい」でお答えください。

1 現在、入院中ですか?

※申込日当日の入院および退院の場合も「はい」になります。

2 現在、医師から、「今後1年以内の入院または手術」をすすめられていますか?

※入院または手術について、「実施時期が未定の場合」や「実施するか否か、または実施時期の判断が、本人や家族にまかされている場合」も「はい」になります。

CO・OPならではの
3つのやさしさ

告知事項(健康状態についての質問)は2つです。

J1900円コースは満20歳満期後も所定のコースに継続できます。

「だれもが加入できる共済」へと続く道の第一歩です。

2つの告知事項にどちらも「いいえ」なら

- ◎ 現在、通院していても…
- ◎ 薬を服用中でも…
- ◎ 過去に病気・手術をしていても…

(※申込日以前に発病していた病気を原因とし、申込日から1年以内の共済事由については、共済金を削減してお支払いします。)



V1000円・J1900円コースにご加入いただけます



投薬中や通院中でも入れる保障をさがしている方に…

コース名(月掛金)	V1000円コース
加入できる年齢(発効日時点)	0歳～満64歳
保障期間	満65歳の満期日まで
病気入院・事故(ケガ)入院 0～19歳:1～360日分 * 20～64歳:1～184日分	日額2,000円
事故(ケガ)通院 事故日から180日以内 1日目から90日分	日額1,000円
手術 コブ共済連の定める支払対象手術を受けた場合	1・2・4万円 <small>手術の内容により金額が変わります</small>

*発効日における年齢が0歳～満19歳の場合、満20歳の満期までは1入院について360日分で保障し、それ以降は184日分の保障となります。

※この内容は2016年9月より適用されます。上記は保障内容の一部です。

※CO・OP共済に加入するには、出資金をお支払いいただき、お近くの生協の組合員になることが必要です。生協は宅配や店舗で組合員のくらしに貢献しています。
※CO・OP共済(たすけあい)の詳しい保障内容は、加入申込書付きのチラシ等をご覧ください。

契約引受団体: 日本コブ共済生活協同組合連合会



持病があり、保障の加入をあきらめていたお子様に…

コース名(月掛金)	J1900円コース
加入できる年齢(発効日時点)	0歳～満19歳
保障期間	満20歳の満期日まで
病気入院・事故(ケガ)入院 1日目から360日分	日額5,000円
事故(ケガ)通院 事故日から180日以内 1日目から90日分	日額2,000円
手術 コブ共済連の定める支払対象手術を受けた場合	4・8・16万円 <small>手術の内容により金額が変わります</small>

共済のお問い合わせは
いばらきコブ コブ共済センターへ K-68283-1908

フリーダイヤル **0120-414930**

営業時間/9:00～18:00 (日曜休業)

※いばらきコブの共済の事務は、コブネット事業連合会へ業務委託しています。

なるしま内科医院

当院は、膠原病、リウマチ性疾患を専門とした内科系診療所です。
当院の院長は医大を卒業後、30年以上にわたって膠原病、リウマチと闘う患者さんの診断・治療に当たってきました。

院長：成島勝彦（茨城県膠原病友の会顧問医、リウマチ専門医）

診療科目：内科、リウマチ科、アレルギー科

診療時間

	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	○	○	○	休	○	○
14:00~18:00	○	○	○	休	○	○

休診日：木曜・日曜・祝日

案内地図



〒300-1159 稲敷郡阿見町本郷一丁目22番地1

TEL. 029-869-4820

FAX. 029-869-4821

障害年金請求サポートチーム茨城

茨城県全域と千葉県北部を中心に活動しています
メンバーの知識と経験を活かして**困難な案件**にも取り組んでいます

- ◆ 網膜色素変性症・膠原病・リウマチ等の難病、うつ病・統合失調症等の精神疾患、高次脳機能障害、脳脊髄液減少症、ガン等を含むほぼすべての病気やケガが障害年金の対象になります。(実際に受給できるかどうかは、初診日、障がいの程度、年金保険料納付状況等によります)
- ◆ 請求までには、年金事務所などの相談窓口へ何度も足を運び、書類をそろえなければなりません。
- ◆ 適切な書類を作成できるかどうかで、結果が左右されることがあります。
- ◆ 一度不支給とされても、再チャレンジの道があります。
- ◆ 私たちは障害年金請求を専門として、ご相談いただいた方を全力でサポートいたします。
ご相談から請求、(再)審査請求までのすべてをお引き受けしますので、相談・依頼したいメンバーに直接ご連絡ください。(相談は無料です)



遠藤 桂子(社会保険労務士 ケイコオフィス)
電話：0297-45-6869
携帯：090-4814-8686
メール：keikooffice7123@yahoo.co.jp
ファックス：0297-45-9231
ホームページ：http://www.flare-group.com/
所在地：守谷市松前台7-20-15

どうぞ、ご相談ください。
あなたのお役に立つよう
に精一杯ご支援いたしま
す。安心しておまかせくだ
さい。



益子 良市(霞ヶ浦社会保険労務士事務所)
電話：0299-59-4679
携帯：080-5480-8443
メール：ryoma-snsch@m01.fitcall.net
ファックス：0299-59-4679
ホームページ：http://kasumigaura-sr.com/
所在地：かずみがうら市下稲吉 2673-84

自分はどうなんだろうと、
一人で悩んでいませんか？
障害年金もらえないと、
あきらめていませんか？
まずは相談を！



廣瀬 智克(ヒロセ社会保険労務士事務所)
電話：029-866-0665
携帯：090-3335-9518
メール：ttn5rm32dd@mx4.ttcn.ne.jp
ファックス：029-866-0665
ホームページ：http://shogainenkin.info/
所在地：つくば市国松 14

「障害年金制度」は、かな
り複雑で、分かりにくい内
容です。
お困りの方は、いつでもご
連絡ください。

茨城県難病団体連絡協議会 加盟団体一覧

	事務局・住所等
茨城県腎臓病患者連絡協議会 会長 鈴木 勝	〒310-0851 水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館3階 TEL 029-244-2825 FAX 029-244-2813
全国筋無力症友の会茨城支部 支部長 前田 妙子	〒302-0024 取手市新町1-6-1-305 TEL&FAX 0297-73-1518
全国パーキンソン病友の会 茨城県支部 支部長 植本 泰久	〒301-0856 龍ヶ崎市貝原塚町3552-6 TEL&FAX 0297-64-3546
茨城県心臓病の子どもを守る会 会長 宇佐美 幸枝	〒310-0836 水戸市元吉田町2236-5 (佐々木 方) TEL&FAX 029-246-2960 E-mail: iba_mamoru@yahoo.co.jp
全国膠原病友の会茨城県支部 支部長 千葉 洋子	〒310-0905 水戸市石川3-4180-1 TEL&FAX 029-254-6776 E-mail: y-chiba32@jade.plala.or.jp
日本てんかん協会茨城県支部 代表 鈴木 宏哉	〒311-1125 水戸市大場町2330-4 TEL&FAX 029-269-4084 E-mail: info@akari-chan.com
茨城喘息患者の集い 「いばらき野バラの会」 会長 村野 茂	〒300-0834 土浦市小岩田東2-9-12 TEL&FAX 029-822-4405 E-mail: murano-s@kej.biglobe.ne.jp
日本リウマチ友の会茨城支部 支部長代行 小野 洋子	〒300-1205 牛久市東大和田町119-6 TEL&FAX 029-801-9674
全国MS友の会茨城支部 支部長 桑野 あゆみ	〒306-0421 猿島郡境町染谷780-2 (齋藤 方) TEL&FAX 0280-86-5044
いばらきUCD CLUB 代表 菊地 俊雄	〒310-0842 水戸市けやき台1-112-3 (吉川 方) TEL 029-246-2285
日本ALS協会茨城県支部 支部長 海野 侑	〒306-0221 古河市駒羽根712-16 TEL&FAX 0280-92-5244
茨城県ダウン症協会 会長 鍵 久美子	〒305-0856 つくば市観音台1-36-14 (百溪 方) TEL&FAX 029-836-3990 E-mail: office@idsa.sakura.ne.jp

◎ 各団体への入会の申し込みならび行事等に関するお問い合わせは、各事務局あてにご連絡ください。

◎ 個人会員の申し込み、その他については茨難連事務局までお気軽にお問い合わせください。

医学が進歩した今日においても原因不明ないしは治療法の確立していない病気がたくさんあります。そのような病気の患者さんや家族の皆様のさまざまな悩みや疑問にお答えしたり、一緒に考えるのが「難病連テレフォン相談」です。このテレフォン相談は、茨城県の委託による「難病相談・支援センター地域交流活動事業」の一環として、茨難連が行なっているものです。

● 難病とたたかう患者さんや
● ご家族の悩みや疑問に
● 答え、ともに考える
● あたにかい付聞
● があります

難病連テレフォン相談

茨城県難病団体連絡協議会
ご相談電話番号
029-244-4535

難病連テレフォン相談のご案内

◎ この会報は、赤い羽根共同募金の配分を受けて作成しました。

SSKPいばらき難連78号

発行責任者／茨城県難病団体連絡協議会 会長 佐々木 一志
編集／広報部会 〒310-0851 茨城県水戸市千波町1918番地
茨城県総合福祉会館4階 TEL&FAX：029-244-4535
ホームページ <http://ibananren.web.fc2.com/>
Eメール iba-nanren@lake.ocn.ne.jp
発行者／特定非営利活動法人・障害者団体定期刊行物協会
〒157-0073 東京都祖師谷三丁目1-17-102 TEL：03-6277-9611
印刷／ワタヒキ印刷株式会社 〒310-0012 水戸市城東1-5-21
TEL：029-221-4381 (頒値 100円)